



まつなが たかお
松永 孝男 議員
(富岳会)

コロナ禍を乗り切るために

問 新型コロナウイルスワクチン接種の体制、スケジュール、費用負担について伺う。

部長 新型コロナウイルスワクチンの集団接種は土曜、日曜を中心に、保健センター、市立病院、旧東京電力の建物、白糸自然公園体育館、芝川B&G体育館の5会場で行う予定。16歳以上の全市民が対象だが希望者のみの接種となる。4月26日以降に高齢者施設の入所者からスタートし、5月10日以降に65歳以上の高齢者の接種を始める。接種は無料で、接種に係る事務費も含めて全て国が負担する。

問 小中学校のリモート授業の取組について。

教育長 令和3年3月までに全ての児童生徒にパソコンが導入される。その後パソコンの使い方を指導し、5月中旬から家に持ち帰り

リモート授業に対応できるようになる計画。また、保護者向けのパソコン使用マニュアルを作成し、小学校低学年でもリモート授業ができるよう準備していく。

問 運動会、文化祭、修学旅行などの大きな行事について伺う。

教育長 学校行事は教育活動の中で大変有意義なものであり、コロナ禍においても時期、場所、方法などを考慮し、各学校の実態に応じて実施していくことが重要と考えている。

問 観光、飲食、イベントなど著しく売上が低下した事業者の緊急支援策について伺う。

部長 経営が悪化している飲食店、観光業、宿泊業、タクシー業、代行業に対して1事業者当たり20万円の事業継続応援給付金を給付している。また、富士宮市観光業連絡協議会が企画した旅行事業等に対する補助金を400万円増額し、1年間事業を延長する。さらに市内の消費を喚起するために、前回同様プレミアム率50%の商品券事業を早急を実施する。



すずき ひろむ
鈴木 弘 議員
(至誠)

脳の健康寿命を延ばす対策～認知症予防～

問 認知症予防に大切なことは。

部長 WHOでは12の対策を推奨している。①定期的な運動の実践、②禁煙、③健康的な食生活、④過度な飲酒の抑制、⑤体重の管理、⑥高血圧の管理、⑦高血糖の管理、⑧脂質異常の管理、⑨うつ管理、⑩聴力の管理、⑪知的活動、⑫社会活動を挙げている。

問 MCI (軽度認知症) はいかに発見されるか。

部長 MCIとは、正常と認知症の中間の状態、物忘れはあるが日常生活には支障がない状態をいい、このうち10～30%の方が認知症に進行する。MCIの発見には気づきが大切。認知症サポーター養成講座や健康講座などを通じて、多くの市民の方に認知症を正しく理解していただくことで、ご家族だけでなく職場等でも周囲

が早めに気づいて、早期発見、早期受診につながるよう啓発活動を行っている。

問 認知症と飲酒の関係をどのように捉えているか。

部長 市内の認知症専門医に伺ったところ、アルコールを毎日毎晩飲み続けると脳委縮に影響があり、飲酒をやめた場合、元に戻る可能性もあるとのことだった。



森林における新たな取組

問 山林を舞台にした健康寿命延伸のためにクアオルト健康ウォーキングという施策がある。検討したらいかがか伺う。

部長 健康づくりのためのきっかけや動機づけといった側面もあると思われることから、今後、他市の取組を含めて研究していきたい。